

# 安曇野市公民館報

安曇野市  
中央公民館  
No.12 2013. 6. 5  
TEL62-4565

## 第7回安曇野市公民館大会開催



受賞者の皆さん

5月19日、市公民館大会が豊科公民館ホールで開催され、公民館関係者をはじめ400人以上が参加しました。

大会の中で、次の皆さんが安曇野市公民館活動推進功労者表彰を受賞しました。

- ▼明科、前潮沢地区公民館館長 堀平 勝
- ▼豊科、本村婦人会 豊科、真々部婦人会
- ▼穂高、新屋婦人会 (敬称略)

受賞者を代表してあいさつをされた新屋婦人会の中村さんは「長年公民館の事業のお手伝いをさせていただいて、会員が少なくなるなか、励みになります」と喜びを語りました。

また、次の二つの地区公民館が活動の事例発表を行いました。

- 豊科地域「踏入地区公民館 山本紘子」
- 三郷地域「北小倉地区公民館 熊谷三郎」 (敬称略)

踏入地区公民館では、あづみ野祭りの山車を子どもたちの発案により制作したこと。また敬老会では、毎年小学校の4・5・6年生がフラワーアレンジメントの花かごを作り、一人ひとりがメッセージを添えて渡すなどの世代間交流の一翼を担っていることを語りました。

北小倉地区公民館では、平成23年度より職務遂行基準を作成し、公民館活動に役立てていること。また多くの事業が行われており、その様子を映像で紹介し、「人と人が支え合い、暮らしやすい人間関係と地域づくりを目指し、公民館活動を行っていききたい」と語りました。

### 公民館活動と婦人会

本村婦人会会長 丸山 美榮

5月5日こどもの日の童謡祭りも、第50回を迎え大勢が集まり、音楽を楽しむことができました。

婦人会は唯一の社会教育関係団体として、長年この行事に参加協力して参りました。初めの頃は、就学前の子供さんにお菓子袋をお配りしたことも何年かありました。真々部婦人会では、こどもの日の交流会を今も続けております。良く続いているものと敬服致すところ です。

本村婦人会も、公民館行事の運

動会にはとん汁を前日から用意してお手伝いをします。地域支援では寝たきりや一人暮らしの方への手作り弁当の配食も年二回行っております。

子ども育成会の三九郎の繭玉づくりの指導も行っております。安心安全な野菜作りをして収穫時には子どもたちと交流会ができました。

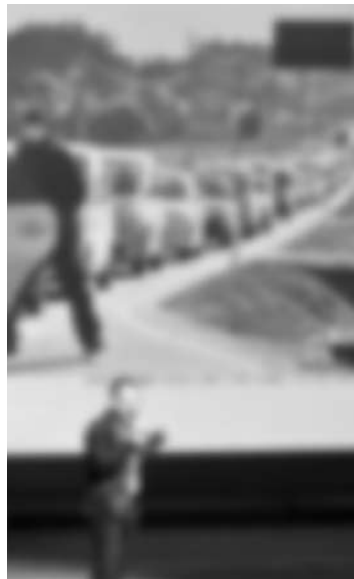
豊科支部婦人会も本村・真々部と成相・下鳥羽の一部ではございますが、若い世代のご理解を願って、公民館を協同で地域福祉活動に携わりつつ明るく楽しく支え合いながら絆を深めていきます。

### 記念講演

『あの避難所は…おだがいさまが支えた169日間』  
〜東日本大震災「ビッグパレットふくしま避難所」が教えてくれたこと〜

元ビッグパレットふくしま避難所県庁運営支援チーム・福島大学つくしまふくしま未来支援センター 天野和彦 特任准教授

【講演要旨】復興の主人公は住民であり、住民の心が丈夫にならなければ、いくら建物や道路が立派になっても、本当の意味での復興にはならない。この心の復興・人



3月12日朝7時の避難の様子を語る天野講師

間の復興を行うのは社会教育や生涯学習であり、その地域における人づくりの最前線基地は公民館である。避難所に常駐し、運営に携わった経験から、希望を無くすと人は死んでしまうということを実感し、生命を守るためには交流の場の提供と自治活動の促進が必要であると感じた。サロンと足湯による交流の場を提供したことから自治活動が生まれた。避難所だけではなく地域でも同じで、交流と自治、生命を守る活動と生きがいと居場所をつくる活動は社会教育そのものである。

**私は一生懸命**  
 上押野地域社会福祉協議会の会長として、なかなか弾みがつかなかった「上押野災害時住民ささえあいマップ」を、A3版にひと目で分かるようにカラー印刷で仕上げた。個人情報にも配慮がされ、さらに避難場所、要援護者、支援者など11のマークで色分けがされている。地域の歴史に目をむけ、神社「正八幡宮」のおはやしを五線譜にして、口ずさめるようにもした。この紹介にホームページを開き、全国の押野まで紹介をしている。

**コミュニケーションづくりに  
 企画性抜群!**



明科七貴  
 大石昭明さん

「自己満足にならないように、効果があるように」を心がけた。「馬鹿なことを始めちゃってセ」と笑うが、これらの費用は、県の「元気づくり支援金」をはじめ、市の制度資金を利用して、24年4月から明科地域の区長会も務め、期待されている。72歳を感じさせないエネルギーシユな大石さんである。

**万人を**

春の風は、にやさしき陽なれば  
 散歩に行こか帽子かぶりて  
 住吉 児嶋 たかの

藤の花の見頃に電話すると言いし  
 君は沙汰なく五月終わりぬ  
 二木 吉川 ミサ子

深き霧拭うが如く去りゆけば  
 黒き田の面息づき見ゆる  
 野沢 帯刀 良子

広き田にかがまり乍ら補植する  
 人影ひとつ動きも早く  
 中萱 吉沢 恵美子

トシとひとつ畦踏み鳴らす度毎に  
 散りばう蜘蛛の止まるも揃う  
 七日市場 安藤 操

一俳句・短歌の作品をお寄せくださいー  
 〒399-7102 安曇野市明科中川手2914番地1  
 教育委員会社会教育課内館報編集事務局 宛  
 TEL.62-4565 FAX.62-3525  
 E-mail:shakaikyoku@city.azumino.nagano.jp  
 次号は7月発行、6月24日締め切りです。

**古きを尋ねて**

**⑨ 魏石鬼窟 (D・1号墳)**

有明宮城にある有明山神社の東に、今は無住となつてしまった五竜山明王院正福寺があります。そのお寺から、路傍にたえず石仏を見ながら東へ向かう山道を5分ほど進むと、大きな岩の上に建つ観音堂が見えてきます。  
 このお堂が建つ巨岩の下に、魏石鬼八面大王の住処であったという伝説が残る窟があります。  
 窟は、奥行きが約6・2m、幅は一番広い奥壁の位置で約2・4

mを測り、奥へ進めば、大人が立つこともできる天井の高さとなります。内部は花崗岩を数段積み、その前に、高さ約1・5mの板状の石を壁のように立てて、石室を造っています。  
 大正10年に考古学者の鳥居龍藏氏が「ドルメン式古墳」(平らな巨岩を組み合わせた記念物的な古墳)と紹介しましたが、昭和61年に穂高町誌編纂に伴う調査が行われ、古墳時代後期の土器片、耳飾り、馬具などの破片が出土し、改めて古墳であることが立証されました。しかし、それと同時に、この古墳は、築造されてから約500年後の平安時代末には開口され、中世からは、修験者がこもつ

て護摩を焚きながら修行を行う場へと用途が変わってきていることもわかってきました。  
 さて、松川村馬羅尾から堀金田多井にかけての西山山麓の沢沿いには、古墳時代後期の100基を越える古墳が築かれていたと推定されています。そして、そのほとんどが、横穴式石室をもつ円墳で家族墓(家族が亡くなる、同じ古墳に遺体を入れる)であると考えられています。  
 しかし、この魏石鬼窟(D・1号墳)は、山中の洞窟を利用し



て築かれた単独墳である事、石室の石の積み方が他の古墳とは違う事など、異なる点が多く見受けられるのです。それは、築造集団や被葬者の違いに起因するのか。魏石鬼窟は、たいへん謎の多い古墳といえます。

**ひまわりクラブ開講式**

三郷公民館は4月19日、同館講堂で「ひまわりクラブ」の開講式を開き、保育園入園前の幼児と保護者50組ほどが参加した。式の後、幼児たちは早速、遊具を使い夢中になつて遊んでいた。「ひまわりクラブ」は、遊びながら親子と子どもがふれあい、参加者同士が交流を深めることを目的に28年積み重ねて来た。全体活動や行事のほか親子数組編成で水、木、金曜日の3コースに分かれての班活動が基本になる。自分たちで話し合いながら創意工夫して週1回1年間活動を続けていく。



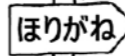
楽しい笑い声が響く

**地区公民館役員研修会**



熱心に聞く参加者

豊科地区公民館役員研修会が、4月13日に行われた。前松本市寿公民館長の御子柴宏さんを講師に「まちの公民館のあり方・公民館はまちの魅力を引き出すところ」と題した講演を聞いた。地区公民館だからこその、顔の見え、関係性の大切さを学んだ。



**扇町で  
 スポーツ花見大会**

扇町地区公民館は4月28日、同館で「懇親スポーツ花見大会」を開いた。館内では囲碁、ポールの大会、屋外ではドッジボール大会に心地良い汗を流した。競技大会の後、庭先で開いた花見懇親会は80人ほどが参加して盛大に行われた。



開放感あふれるドッジボール

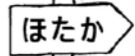
**4/20 「明科いいまち」船出**

明科高等学校の生徒も参加し、さまざまな発想が話し合われている「明科いいまちづくりかい」が行われた。この日は午前9時から黒大豆入りのむすびを握り、とん汁などを100人の参加者にふるまった。  
 内川勝治会長は「知恵と能力を高め、地域づくりを進めていきた」とあいさつを述べた。



むすび750個をにぎる

**有明山神社例大祭**



有明山の麓にある有明山神社(有明宮城)で、4月27日(土)から29日(月)まで例大祭が行われた。この神社は、市有形文化財に指定されている「裕明門」や、神楽殿「小細格天井板絵」の中、橋本雅邦「鳥」が特に有名である。27日は午後3時より宵祭り、28日は午前10時より例祭が行われ「胡蝶の舞」と「剣の舞」の雅楽舞が奉納された。29日は、拜殿前で「豊里青龍太鼓」と有明地区の民謡の方々の踊りが奉納されたあと、子どもも健やかな成長を願う稚児



古式ゆかしく

行列が行われた。今年も新屋敷の4歳から11歳までの子どもたち41人が参加、古式ゆかしい衣装を身に付けて境内を練り歩き、お祭りを華やかに彩った。

# 地区公民館だより

## 豊科地域 吉野地区公民館

吉野地区には豊科南小学校、豊科南中学校、豊科高等学校、県立こども病院、コープながの、JAあづみ豊科支所、簡易郵便局、二子コン大野(株)第三工場などがあります。アルプスの景観にも恵まれ、戸数は約800戸あり、これから200戸ほどの住宅造成が始まるので、発展性のある地区です。

地区の行事としては、文化祭は二日にかけて行い、区民の方の力作の出品、芸能発表など多くの参加があり、240人に観覧いただきました。敬老祝賀会は77歳以上の男女248人の内、48人の出席がありました。なお、出席されなかった方も含めた全員に、吉野神社のお守りなどの記念品を贈呈してお祝いをしました。常会対抗球技復活ソフトボール大会は、体育部員、部長の熱意により開催されました。前回「来年も多めに盛り上げて、区民の親睦を図りたい」と多くの声があり、本年度も開催の運びとなりました。その他にスポーツ、趣味の会、サークル活動などの活動クラブに公民館として応援をし、相互の絆づくりの一面に大きな役割を果たしています。区民ふれあい事業では、子ども

さんや父兄ら大勢の方の参加があり、塩原先生の指導によりレクリエーションゲームを行いました。昼食は手作りカレーを食べ、楽しい一日を過ごしました。本年度は区民ふれあい事業を2回行うことになり、9月の吉野神社の例大祭に合わせ、神社内にテントを張り、区民の方に喜んでいただくよう計画を立てています。また、公民館報「よしの」は年一回の発行ですが、24年度で第76号となりました。

最後に一年の主な行事として文化祭、敬老祝賀会、吉野神社例大祭、魚つかみ取り大会、三九郎、餅つき大会、常会対抗球技大会を開催し、あづみ野祭り、市民運動会、ワンバウンドふらばーるバレーボール大会などにも参加しました。公民館役員は8人、任期2年で、それぞれの立場で責任を持って頑張っています。

(吉野地区公民館長 平林今朝人)



昼食は手作りカレー (区民ふれあい事業)

## グループ紹介

### 野沢箏の会

野沢箏の会は、三郷村時代の昭和63年10月に発足し、今年で25年を迎える息の長いグループです。会員はそれぞれの事情により増減を繰り返して、現在30代から70代の女性6人が野沢公民館で練習を重ねています。

一般のクラブと違い、地区公民館単位の会員構成で当初は小学生も在籍していました。生田流箏曲大師範の杏掛裕子先生を講師に、開催する週は会員の都合に合わせて、月2回のペースで月曜日の8時から10時を基本に活動しています。

例年11月3日に行われる三郷祭の芸能発表会を目指して、デイサービスなどの福祉施設の慰問や、ファイインビュー室山の正月演奏など、ボラ



ンティアで演奏の技を磨いています。また、地域の小学校や中学校の要請に答え、日本古来の「箏曲の音の美しさ」を未来に伝えようと指導に出掛けています。

三郷小学校では2学期末に、4年生から6年生まで箏の授業があり、全学級の音楽の授業時間をまわり指導しています。近隣地域の堀金中学校では「AZT」という名前の総合的な学習の時間があり、講師として招かれ全員が参加しています。

会の代表は毎年持ち回りで選出し、会員同士の親睦、交流を深めながら、和気あいあいと活動を続けています。出前演奏のご用命は久保田育美会長(☎77・2276)までご連絡下さい。ご希望に添える場合に限りお伺い致します。

**櫻** 4月。桜咲き、始まりと出会の季節。なのに何故か昔からこの時期が苦手で、小中高校とも新学期早々から鼻をたらし居眠りばかり。隣の席の女性にも声をかけられず、スタートから出遅れていたのだ。(思えば花粉症のはしり?)

あれから歳月は過ぎて、季節も巡り、今まさに緑深まる良い時候となりました。今からでも遅くはない、大きな目を開いて外の世界を眺めよう。安曇野の四季折々とそこに暮らす人々の営みを見逃さないように。花々も一段と色濃く咲き誇っている。(K・M)